

## 安全衛生だより第3号

### 1. 4月全国行事

- 1) 世界保健デー 4月7日

### 2. 安全・衛生・防災の心得 : 混在作業の安全管理・活動

新聞やテレビ等で報道される、工場や建設現場での事故や災害を詳細に見ると、事故の当事者や被災者は報道された事業場の社員などではなく、同じ構内で作業を行っている派遣会社の社員や外部の請負会社の従業員であることが目につきます。

事業場内で協力会社（請負業者）等が混在して作業を行っている場合、業種等によっては法的に統括的または総合的に安全衛生管理を行うよう決められていますが、法規定の有無にかかわらず、事業場構内の親会社と業者間および各業者間では、特に次の事項について従業員同士もきちんと理解し合い、実行することが大切です。

- ①だれもが気持ちよく仕事が行えるよう、明るく挨拶し合う。
- ②作業間の連絡や調整を頻繁に行い、「不徹底」がないようにする。
- ③合図や標識、警報などはバラバラに決めないで統一し、互いにきちんと守り合う。
- ④安全点検は、点検基準に基づいて行い、不安全な状態や行動を互いに黙認したりしない。
- ⑤作業工程を計画する際は、互いにムリ・ムダ・ムラのないよう十分に調整する。
- ⑥TBM（ツールボックス・ミーティング）などを合同で行うときは、遠慮なく意見を出し合い理解し合う。
- ⑦協力会社と安全衛生協議会等で決まったことについて、互いに納得し徹底を図る、など。



### 3. 当社 良い事例（抜粋）

#### ●宇都宮工場

①産業廃棄物置き場の3Sが良好。廃棄するライターを別に保管して、収集運搬業者への配慮（運搬中の爆発火災防止）を行っていた。



②排水処理場の防液堤とグレーチングが新設され、安全衛生・環境への配慮が施されていた。



#### 4. 他社 事故・災害事例から：連絡・合図を聞き違えて感電死亡

##### (1) 災害発生状況

工事現場において溶接修理工事をしていた作業員（男性28歳）が、作業終了後に工事のために仮設した配線（200V）を撤去する際、先輩作業員がマスクをつけたまま発した合図の言葉が不明瞭であったため聞き間違い、クリップで電源側のリード線を切断したため感電、被災して死亡したものです。



##### (2) 災害発生原因

- ①合図を送った先輩作業員は「メインスイッチを切ってから」と指示したが、被災者は「メインスイッチを切ったから」と聞き違いをして、活線を切断したと思われること。
- ②先輩作業員はマスクを着けていたため言葉が明瞭に聞こえなかったと思われること。
- ③先輩は被災者に指示してすぐ現場を離れたため。感電した被災者を救出できなかったこと。
- ④被災者は先輩の指示を確認せず、また、通電状態を別途確認しなかったこと、など。

##### (3) 再発防止対策

類似災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要です。

- ①死線・活線の状態は、スイッチや検電器等で正確に確認する手順を習慣化する。
  - ②合図や連絡等については、互いに反復して確認し合う。
  - ③電気を取り扱う工具類はできる限り絶縁工具を使用する。
  - ④電気配線等を取り扱うときは「活線」であることを想定して安全確認を行う等の手順や方法を規定する、など。
- ※活線：電流が通じている電線 ⇔ 死線

- 環境安全部より：コロナ禍でマスク装着が当たり前の生活になってきました。声が聞き取りづらいのはもちろん、顔の表情も乏しくなることから、コミュニケーションの取りにくさが事故に繋がりがやすくなります。連絡・合図等は伝わりやすさを意識するように心がけて下さい。

#### 5. ヒヤリハット事例

- 事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	作業場
何をしている時に	ショット粉のかたまりをハンマーで叩き砕いていた時
どうなった	跳ね返りが頬に当たった (保護メガネは着用していたが、保護シールドは未着用だった)

以上